

* 村民の定住意向や人口減少等に対する意識調査

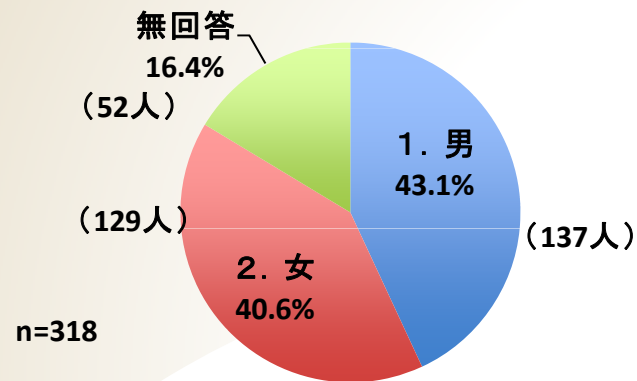
平成27年10月

栄村

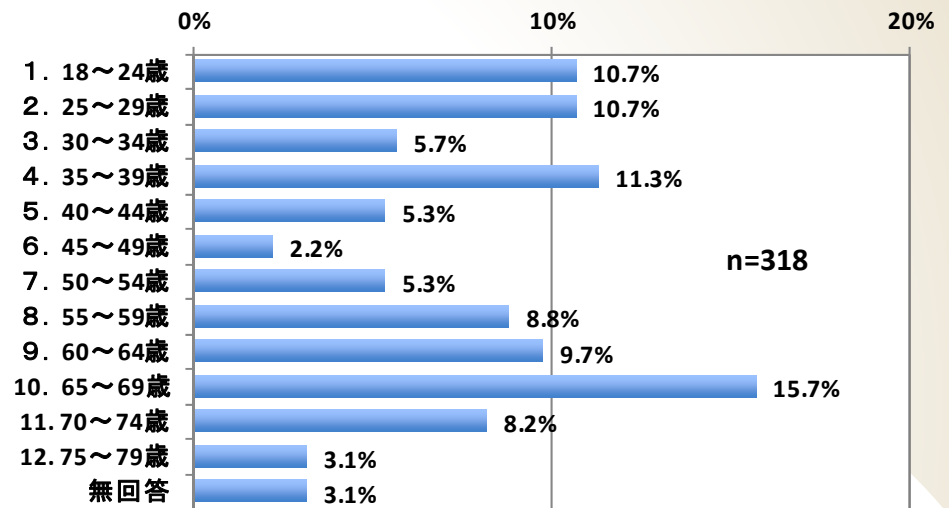
(アンケート受託：(一財)長野経済研究所)

調査期間	平成27年9月1日～14日
対象者	栄村に住む18歳～79歳の590人
回収率等	回収318人、回収率53.9%

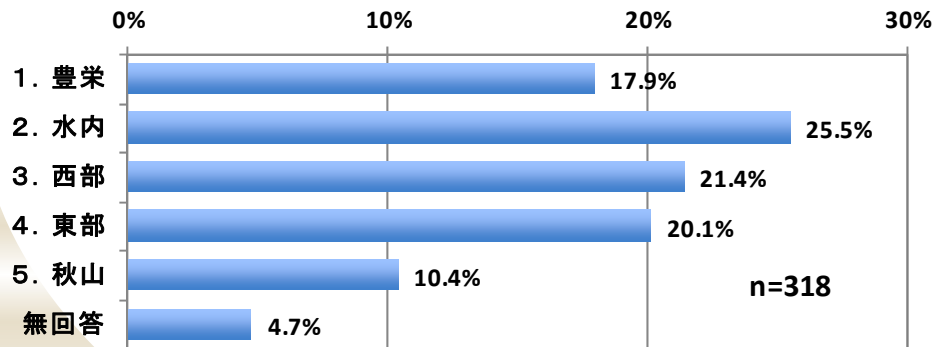
1. 属性情報



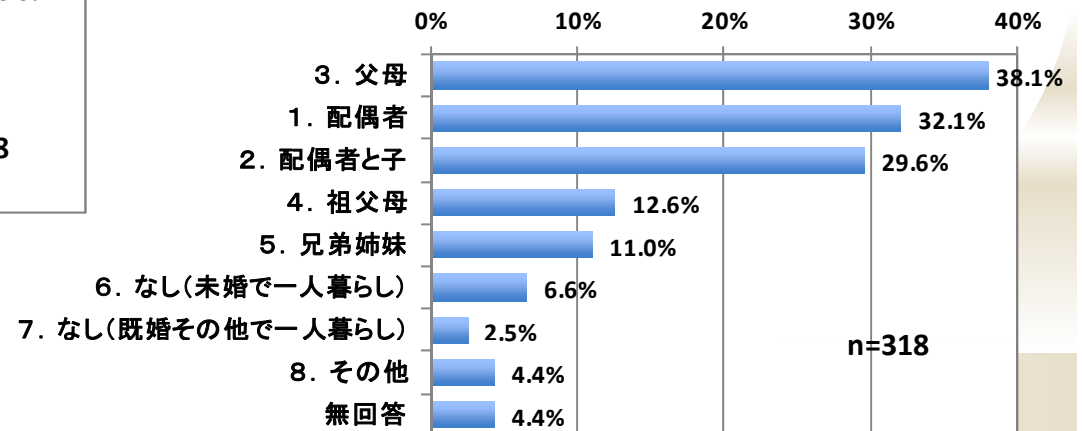
2. 年齢



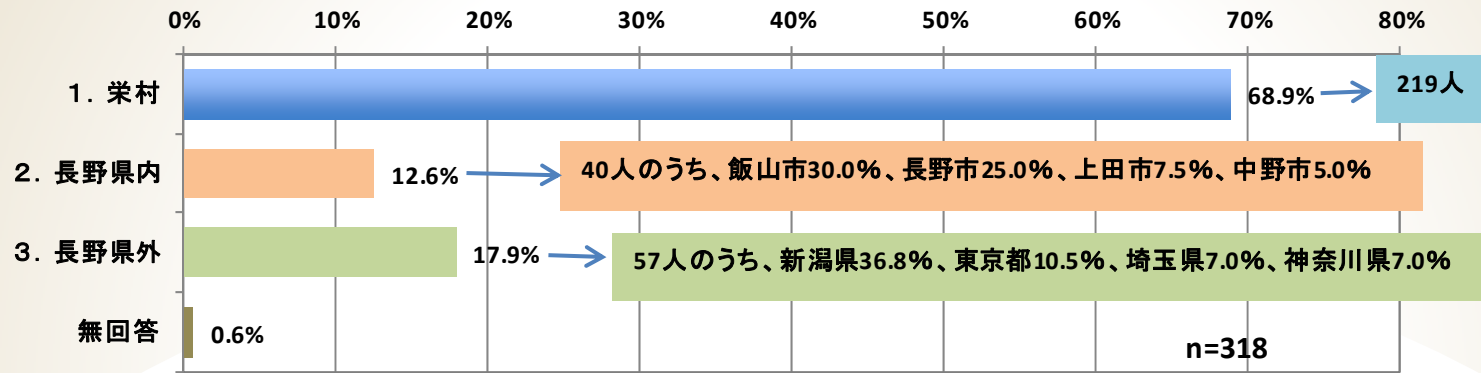
3. 居住地区



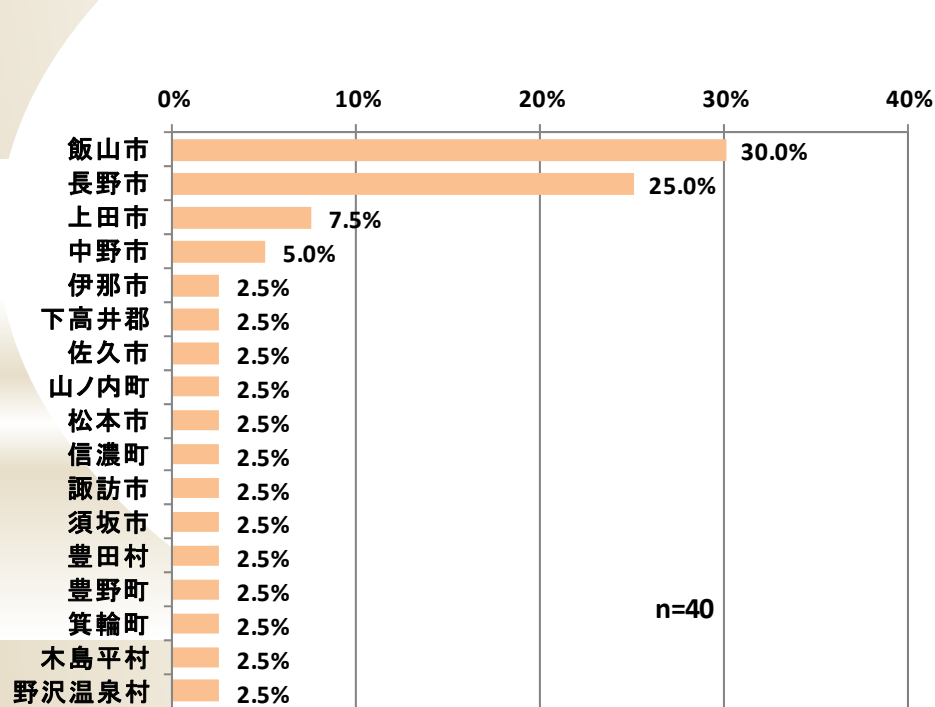
4. 同居の家族構成（複数回答）



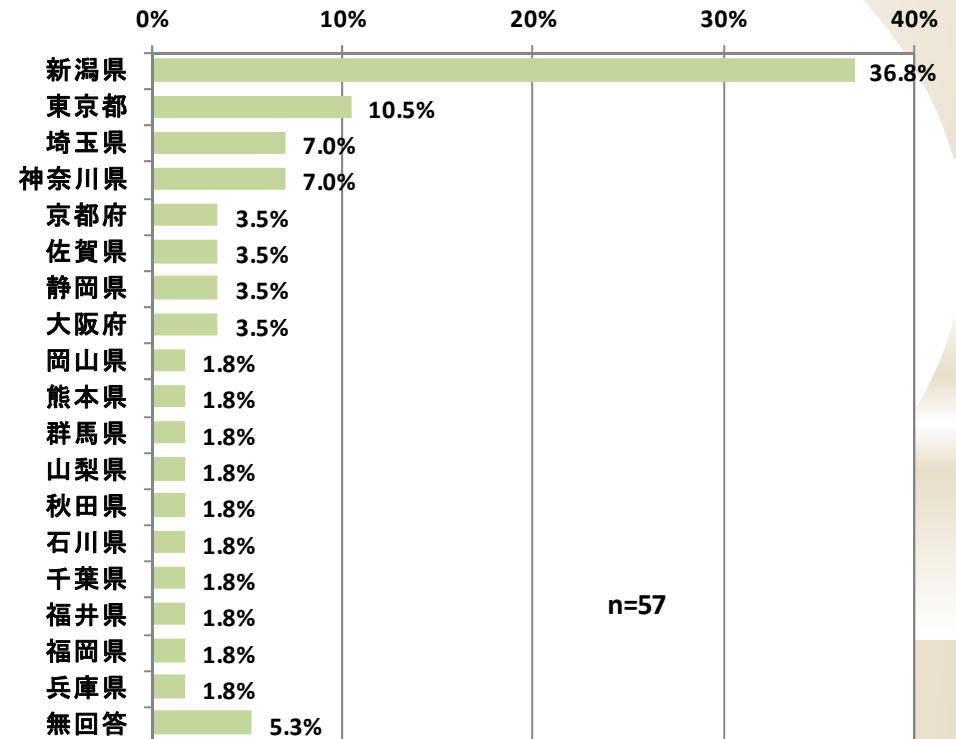
5. 出身地、故郷としている場所



6. 長野県内出身の内訳



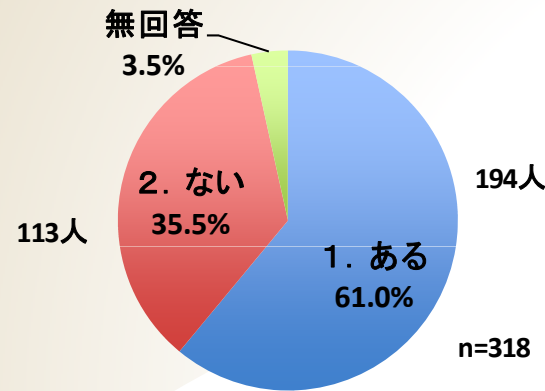
7. 長野県外出身の内訳



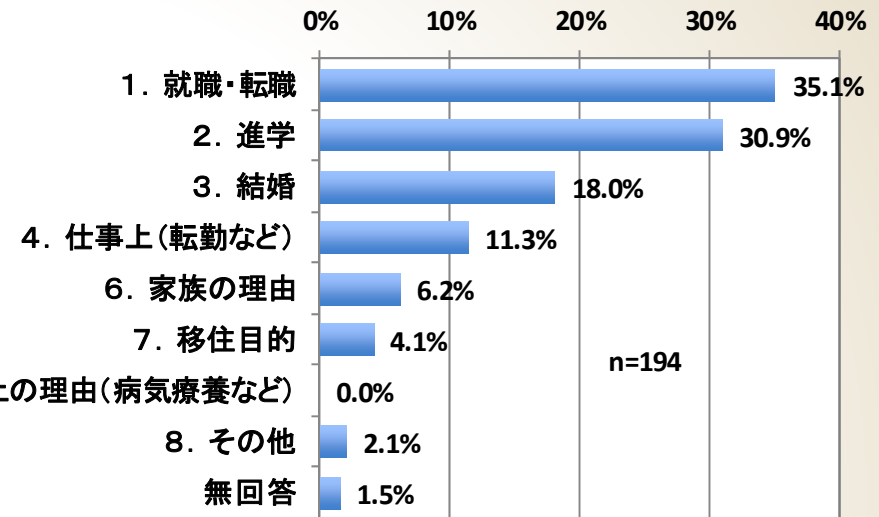
移住や定住に関する質問

- ・ 移住の経験
- ・ 村に対する満足度
- ・ 住みたい・住みたくない理由
- ・ 人口減少、少子高齢化に対する村民意識など

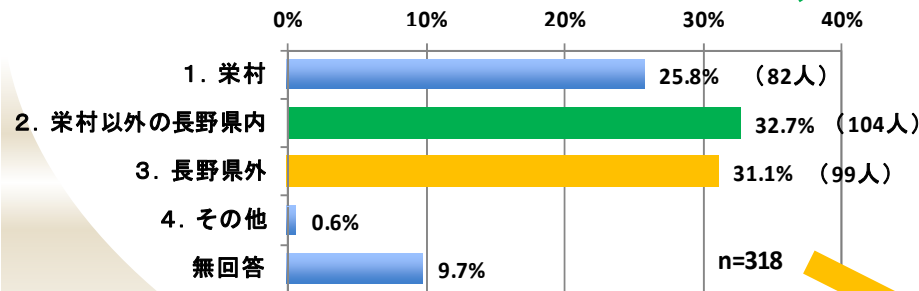
8. 過去の移住の経験の有無、その理由



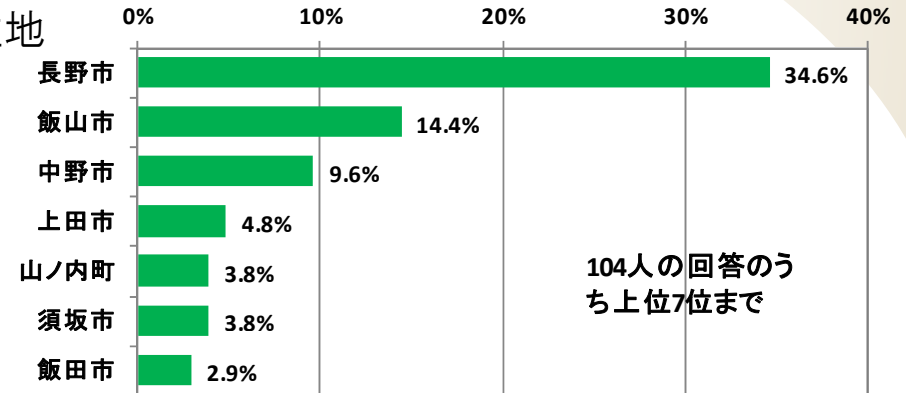
5. 自身の健康上の理由(病気療養など)



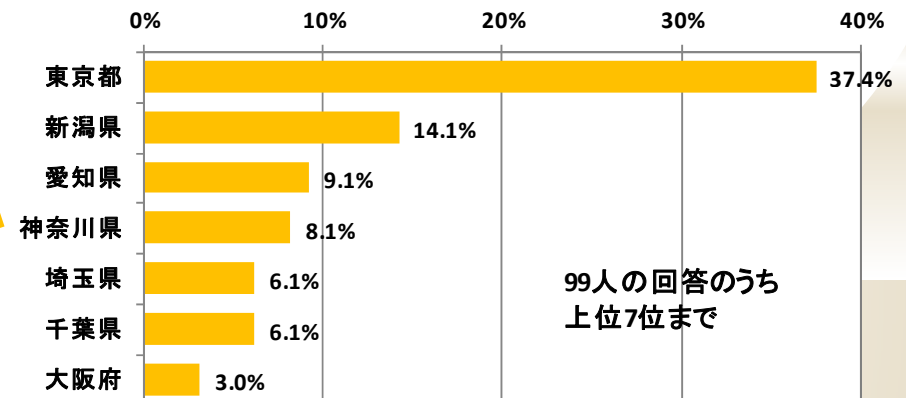
9. 初めて就職(あるいは開業)したときの居住地



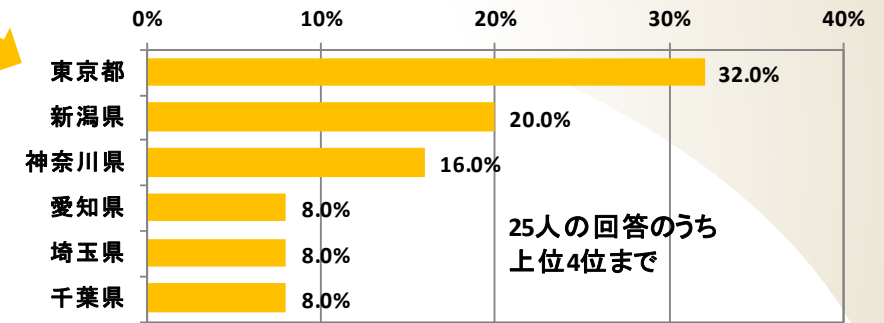
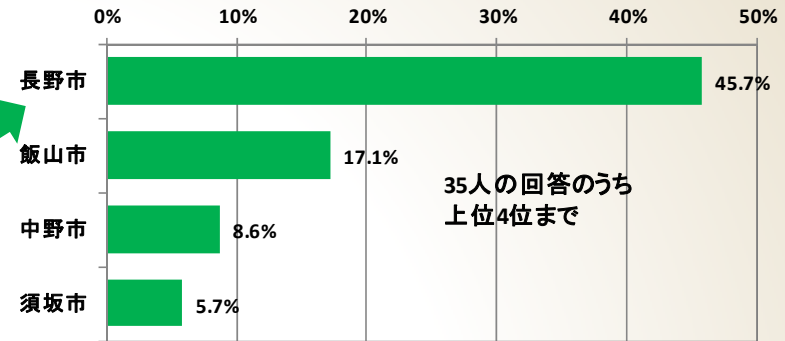
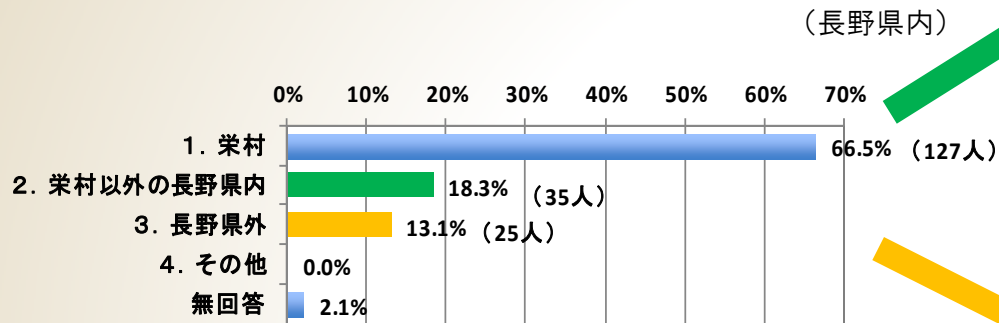
(長野県内)



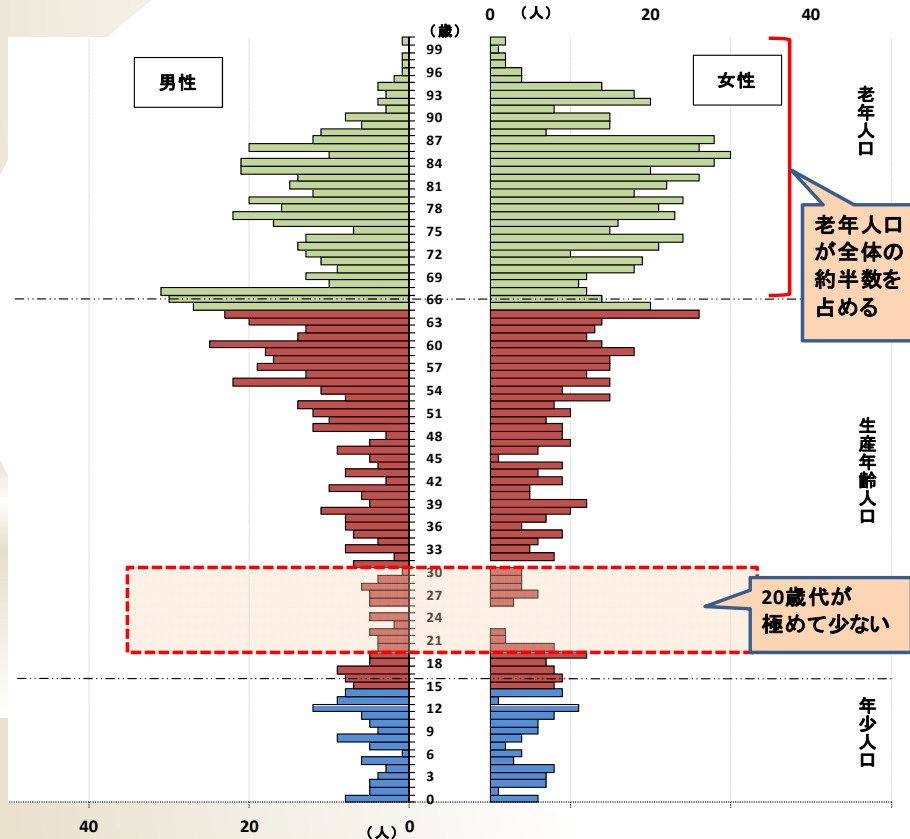
(長野県外)



10. 結婚した時の居住地（婚姻経験のある方のみ）



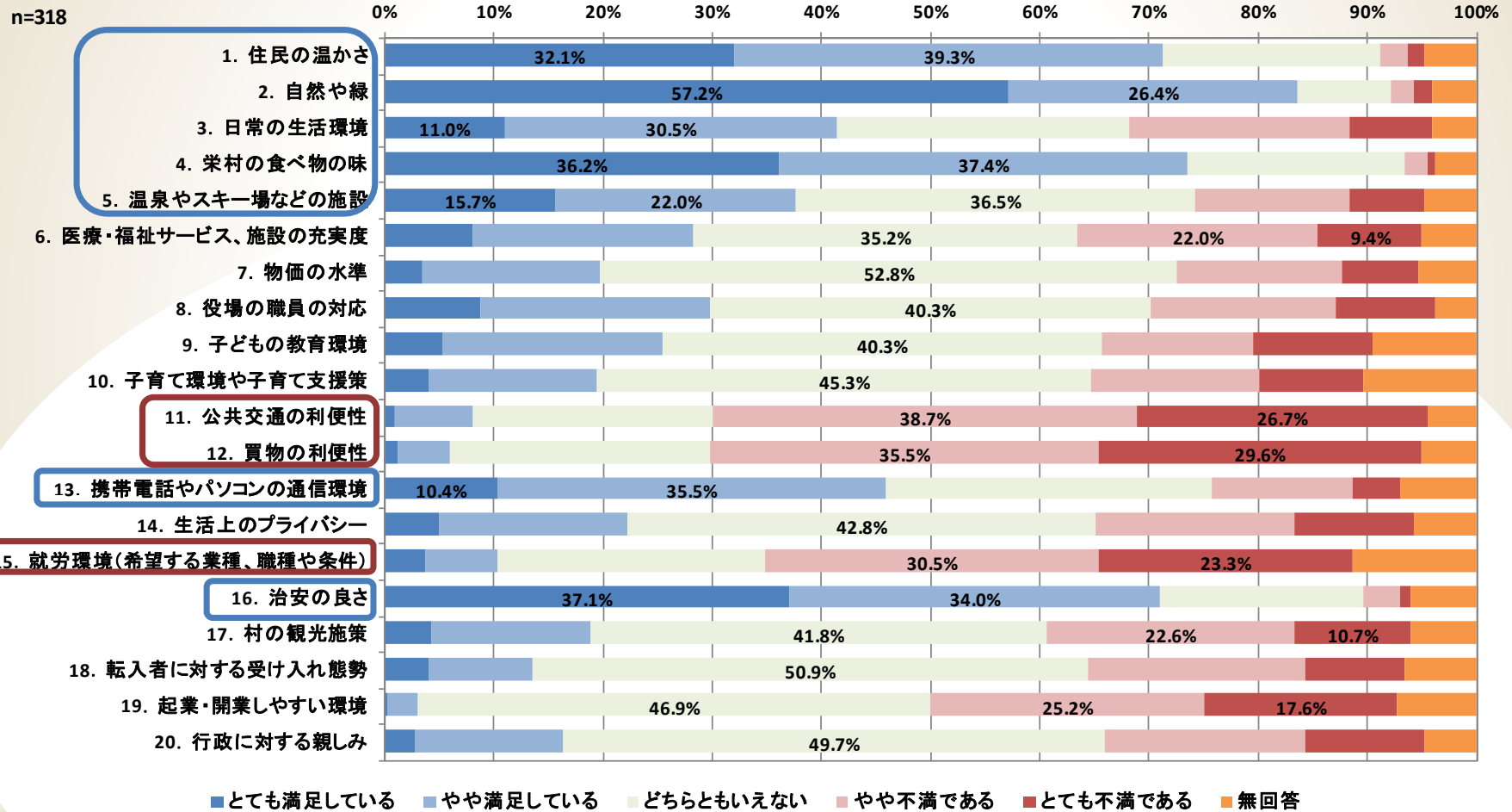
平成26年10月1日の栄村の人口ピラミッド



- ・ 5のアンケート回答者の属性では、7割弱の村民が「栄村出身」と答え、村外出身だと長野県内では飯山市、長野市、県外だと新潟県が多い。
- ・ 8の過去の移住の経験については「就職・転職」「進学」の回答割合が多く、高校や大学などを卒業後に村をいったん離れるといった姿が推察される。9の「就職（あるいは開業）」した場所としては県内では長野市、県外では東京都と答える人が多い。
- ・ 10の結婚した時の居住地では、66.5%が本村でという回答で、県内では長野市、県外では東京都という人が多い。
- ・ 村民属性をみると概ね本村の出身であるが、8で「村外に住んだことがある」（一時的移住）と回答した人も61%あった。近隣の長野市や飯山市、県外では東京都、新潟県と個人的あるいは仕事上の事情でなんらかの結びつきがあって移り住んだと思われる。人口ピラミッド（左図）でもみられる若年層の少ない背景にはついては、本アンケートの回答からも推察できる。

(資料)長野県「毎月人口異動調査」

11. 栄村のどんなところに満足しているか

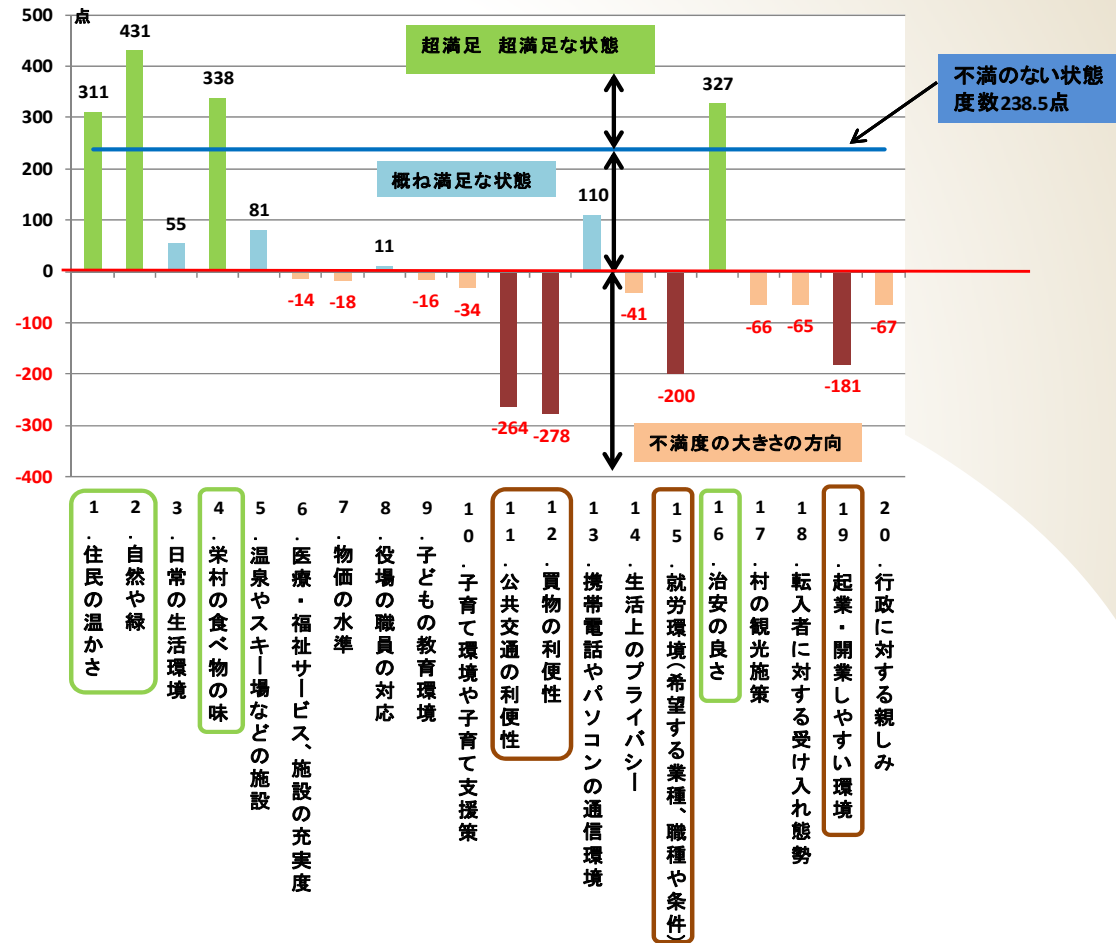


「どちらともいえない」「無回答」の回答割合が大きい場合、各項目の満足度を正確に測れないといった問題を排除するため、各項目について次頁のように点数化し、どの程度満足しているかを再度考察してみる。

〔満足度の状態（点数化）〕

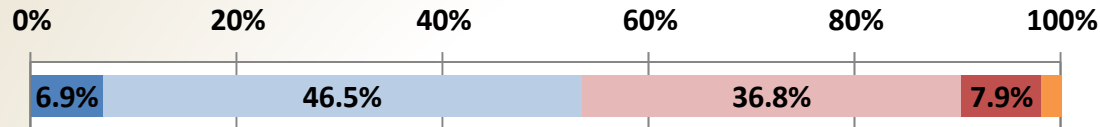
※ここでは、満足度を次のように定義して点数化してみる。
 318人のうち半数159人（50%）が満足し、残りの159人はどちらともいえないと回答した場合を「不満のない状態」とする。また、満足している人のうち、「とても満足している」人を半数79.5人とし点数を2倍に、「やや満足している」人を半数79.5人とし等倍とする。
 「どちらともいえない」は0点
 「やや不満である」は-1点
 「とても不満である」は-2点
 無回答は除く

※この方法で満足度を数値化すると
 不満のない状態点数 = (79.5人 × 2点 + 79.5人 × 1点 + 159人 × 0点) = 238.5点となる
 各項目の「満足度」に応じて点数化すると、
 例えば、「1. 住民の温かさ」は311点になる
 「とても満足している」102人 × 2点 = 204点
 「やや満足している」125人 × 1点 = 125点
 「どちらともいえない」63人 × 0点 = 0点
 「やや不満である」8人 × (-1点) = -8点
 「とても不満である」5人 × (-2点) = -10点
 これらを合計した311点は、「不満のない社会」238.5点を72.5点上回る「超満足な項目」となる



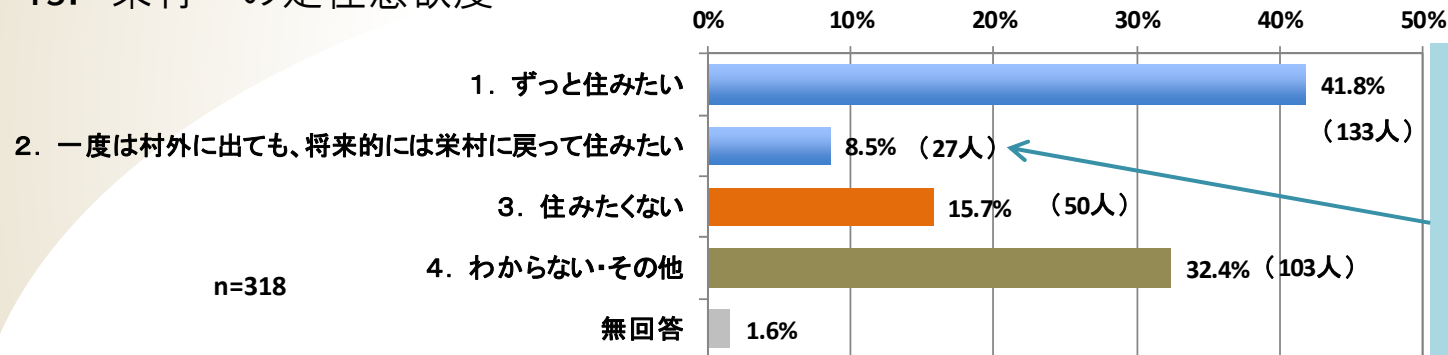
- ・この点数化作業でもう一度各項目の満足度をみてみると、不満のない状態度数（238.5点）を上回る「超満足」は「1. 住民の温かさ」「2. 自然や緑」「4. 栄村の食べ物の味」「16. 治安の良さ」であった（上図）
- ・一方で、不満度の大きい項目で目立っているのは「11. 公共交通の利便性」「12. 買い物の利便性」「15. 就労環境」「19. 起業・開業しやすい環境」となっている。
- ・本村が、不満度の大きい項目について、どのように対応していったらよいかを総合戦略の中に盛り込んでいく必要があると思われる。

12. 栄村に対する総合的な満足度



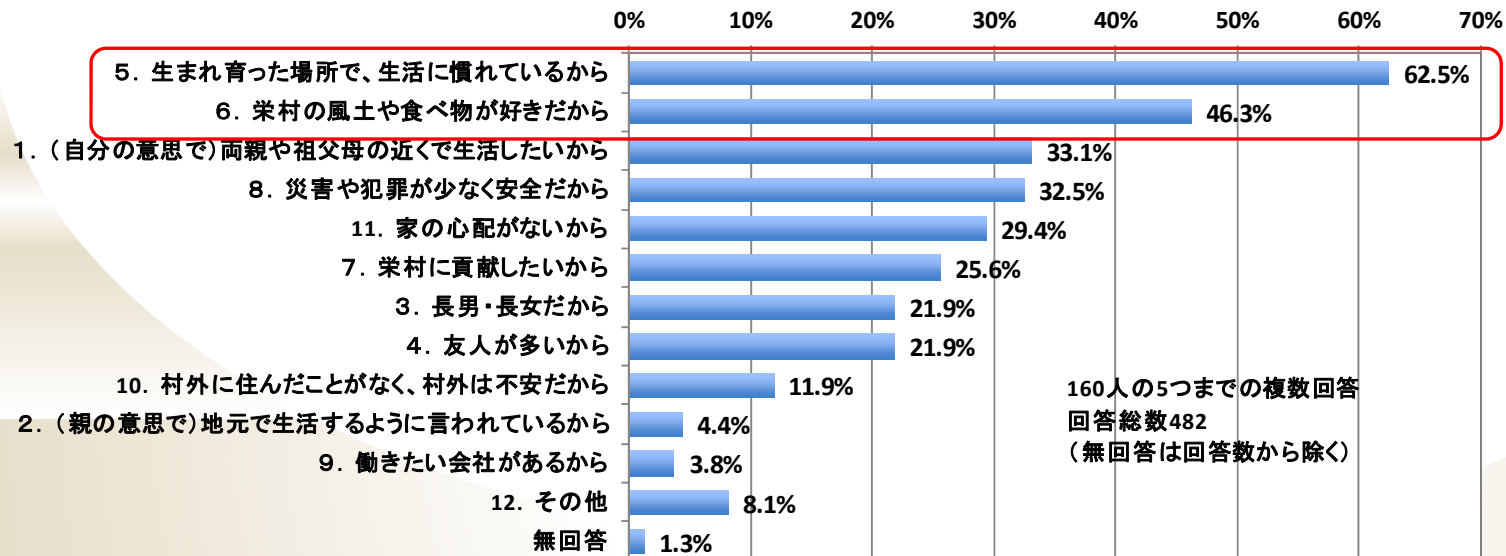
- 1. とても満足している ■ 2. やや満足している ■ 3. やや不満である
■ 4. とても不満である ■ 無回答 n=318

13. 栄村への定住意欲度



将来的とはいつ頃のイメージかの回答
 ①ある程度村外の生活に満足したら・・・14人 (51.9%)
 ②結婚したら・・・1人 (3.7%)
 ③子どもができれば・・・1人 (3.7%)
 ④子どもが独立したら・・・1人 (3.7%)

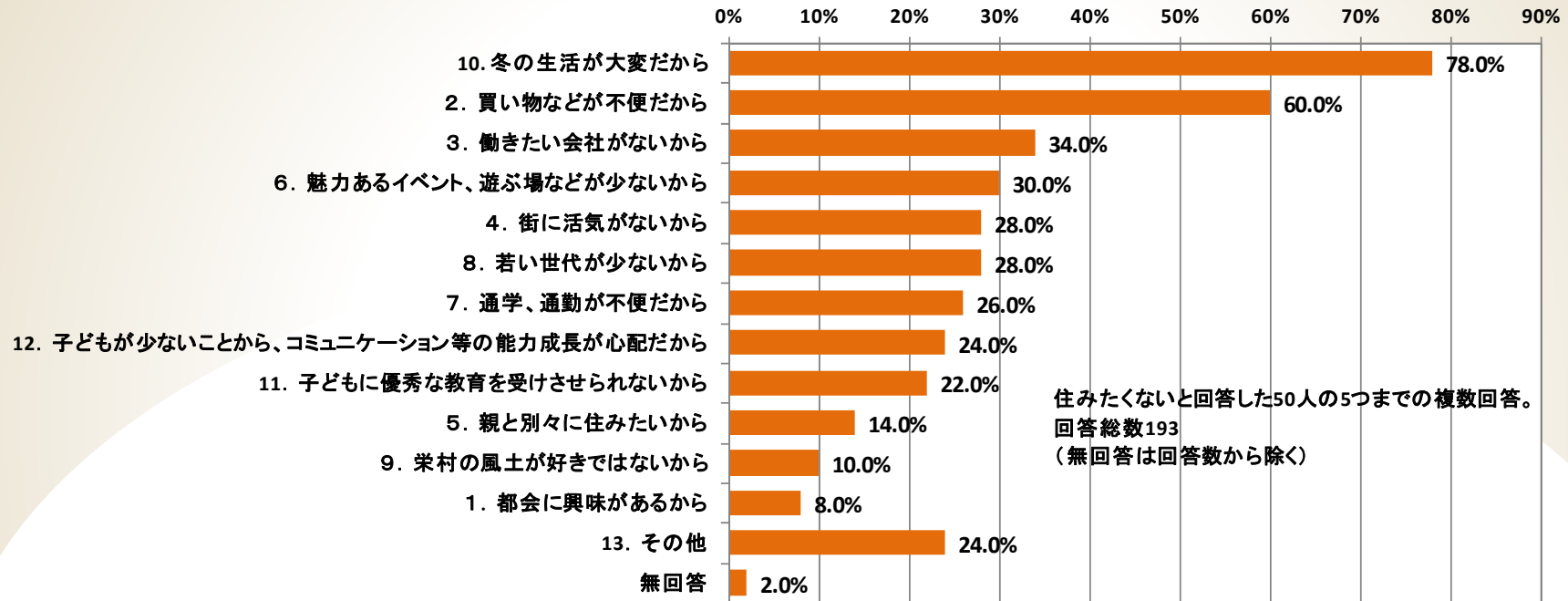
14. 栄村に住みたい理由 (5つまでの複数回答)



160人の5つまでの複数回答
 回答総数482
 (無回答は回答数から除く)

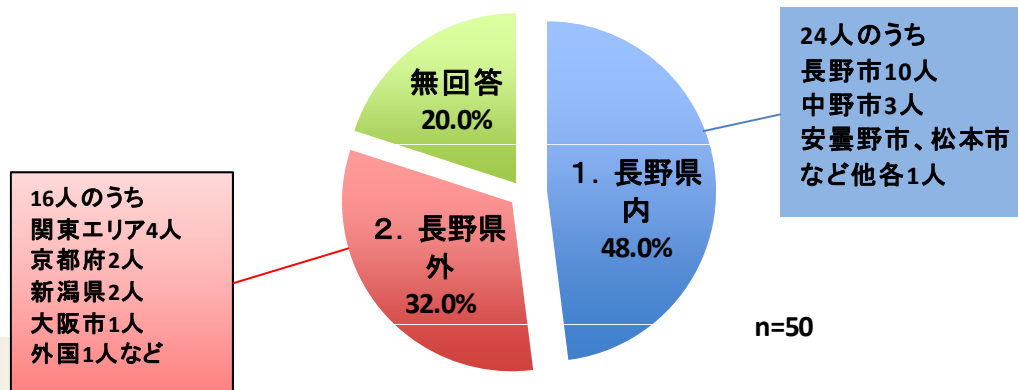
※14は複数回答につき、合計が100%にならないことに注意

15. 栄村に住みたくない理由（5つまでの複数回答）

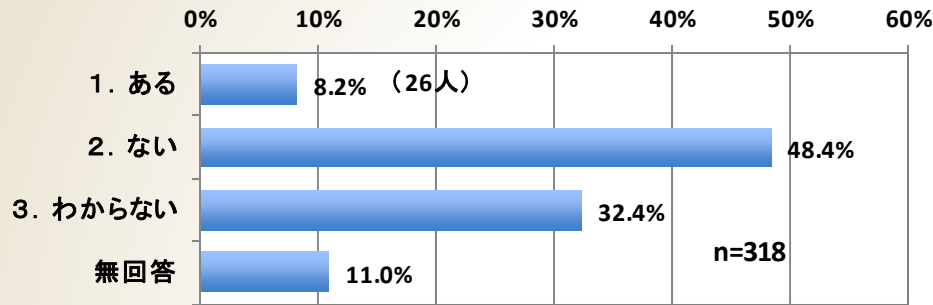


※15は複数回答につき、合計が100%にならないことに注意

16. 栄村以外に住んでみたい場所

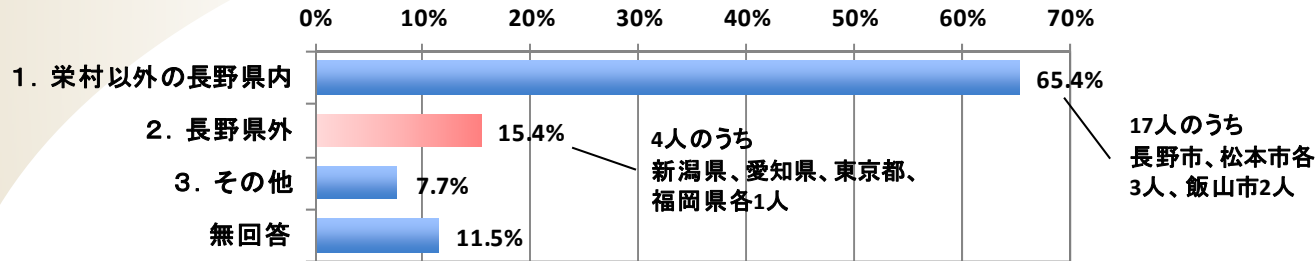


17. 今後5年以内に栄村から転出する予定について

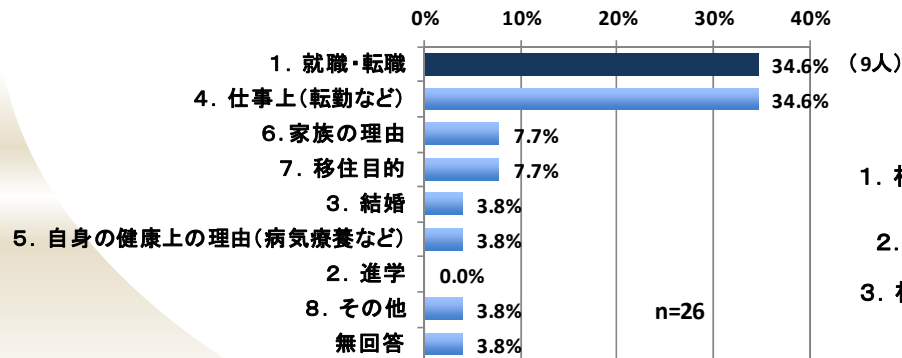


・今後5年以内に栄村から転出する予定の有無については、「ある」と答えた人が8.2%にとどまったが、「わからない」と答えた割合も3割超にのぼった。
 ・「わからない」と答えた理由に具体的な記述は少なかったが、「(村外に住んでいる)子どもと将来的に住みたい」といった家族の理由もあり、18の転出予定の理由と重なるものもあった。

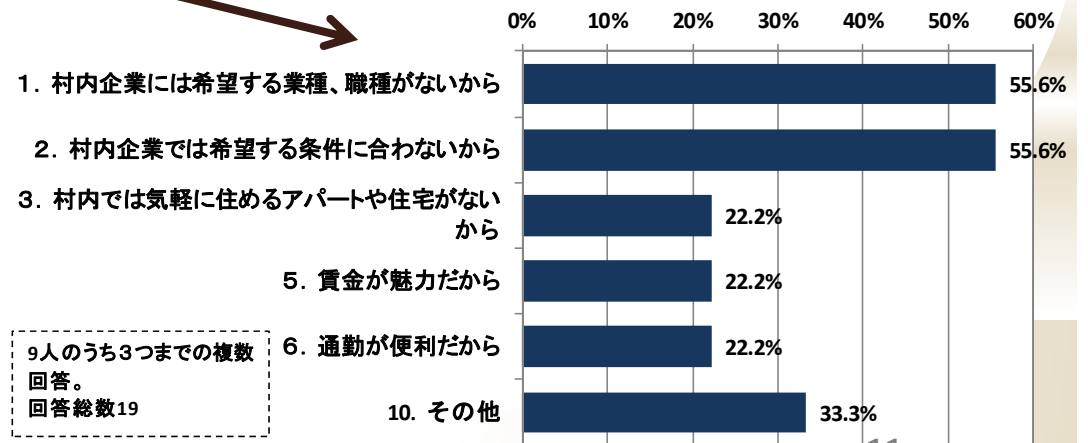
(転出予定の場所)



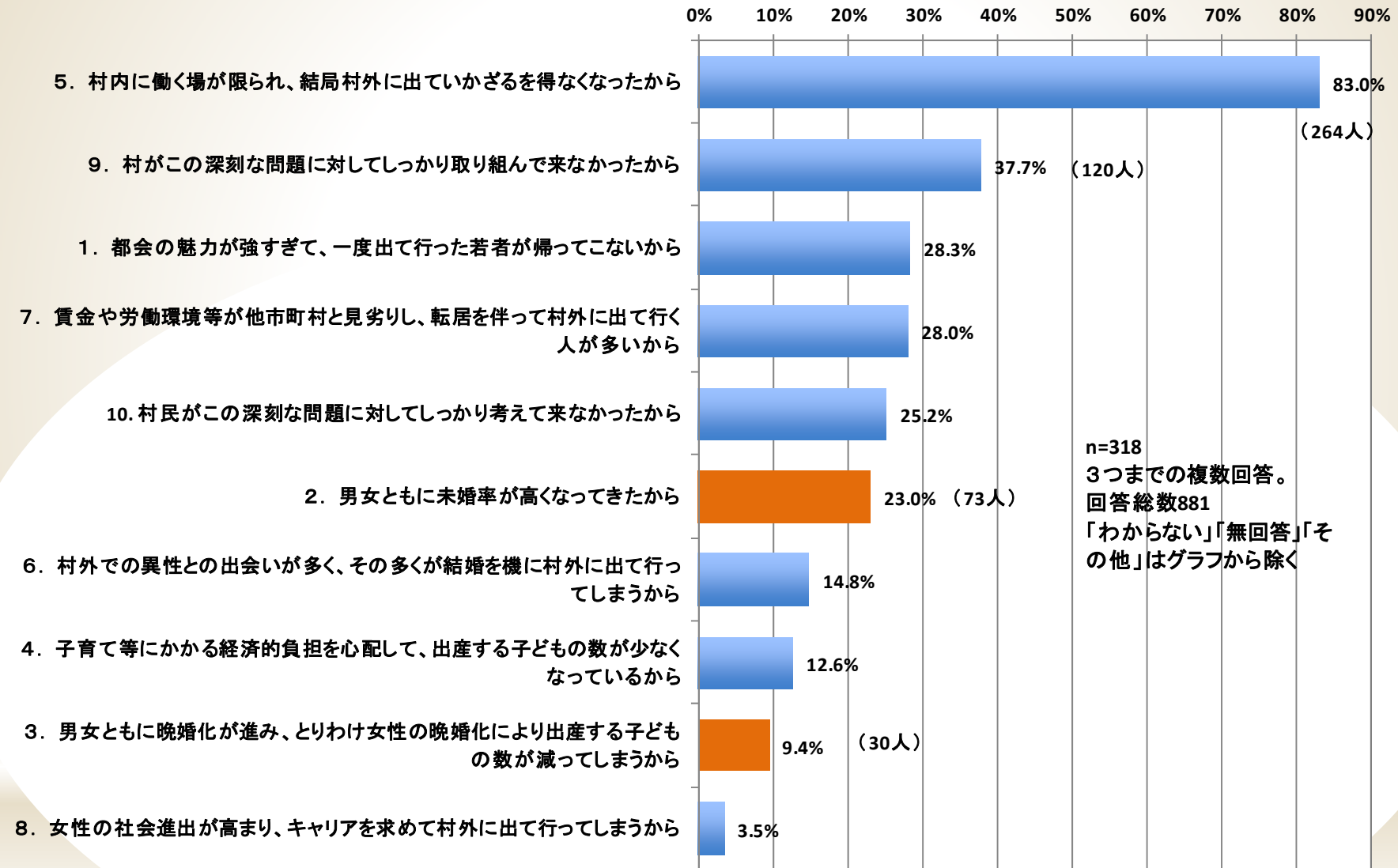
18. 転出する予定がある場合、そのもっとも大きな理由



(栄村以外で就職・転職を考える理由)

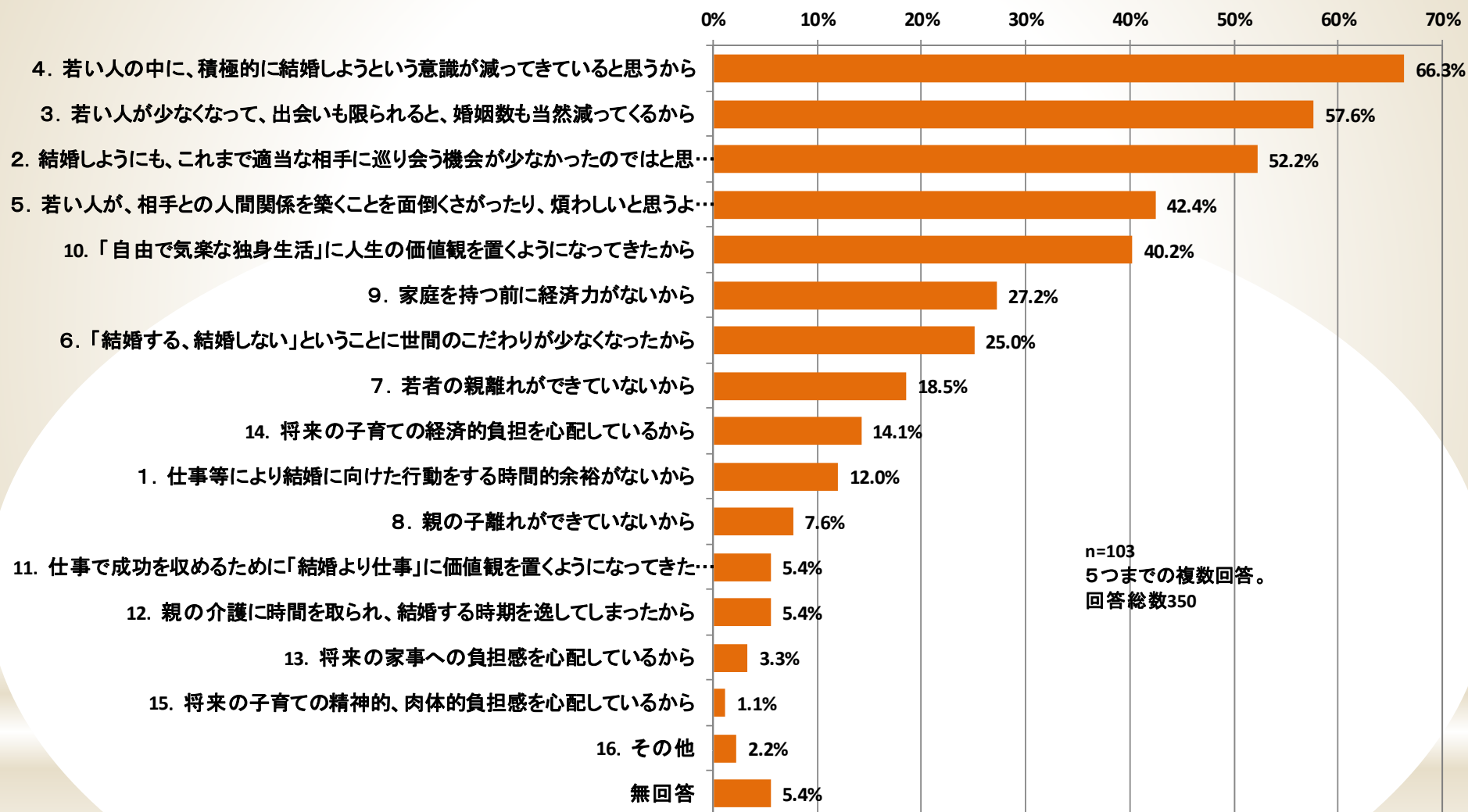


19. 人口減少、少子高齢化が止まらない要因（村民の意識）（3つまでの複数回答）



- ・村民の意識では、「働き口」の限られていることが人口減少が止まらない要因と考えている回答数が8割を超えている。
- ・「都会に出て行った若者が帰ってこない」「未婚率の高さや村外での異性の出会いが多い」といった、若者の社会動態や婚姻事情についてを要因としてあげている割合も相応伺われる。

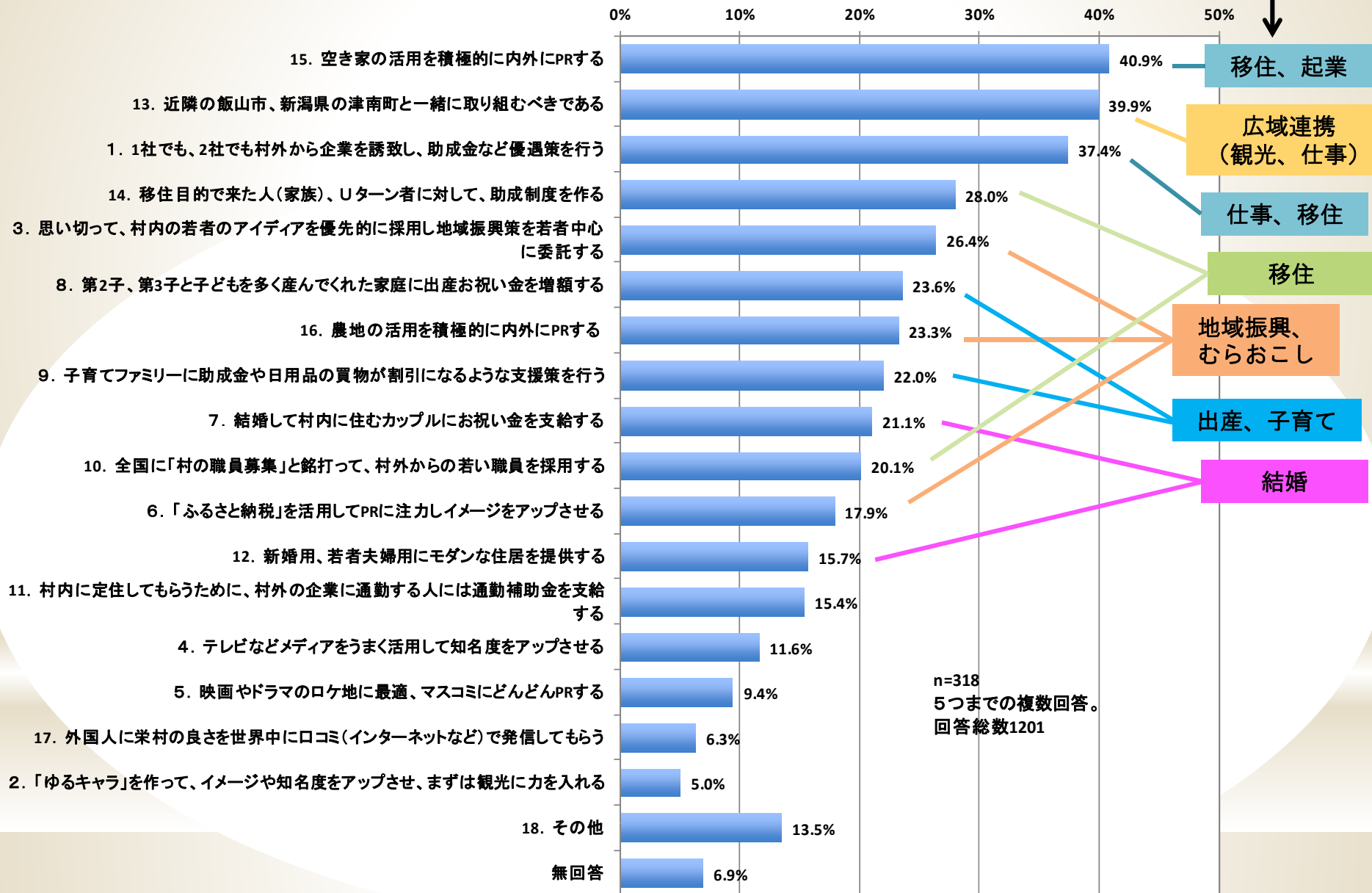
20. 未婚化、晩婚化の進んでいると思う理由（村民の意識）（5つまでの複数回答）



・未婚化、晩婚化の進行については、若者の出会いの機会の減少に加え、異性間のコミュニケーション機会と能力の低下、結婚観の変化など、様々な要因をあげている。

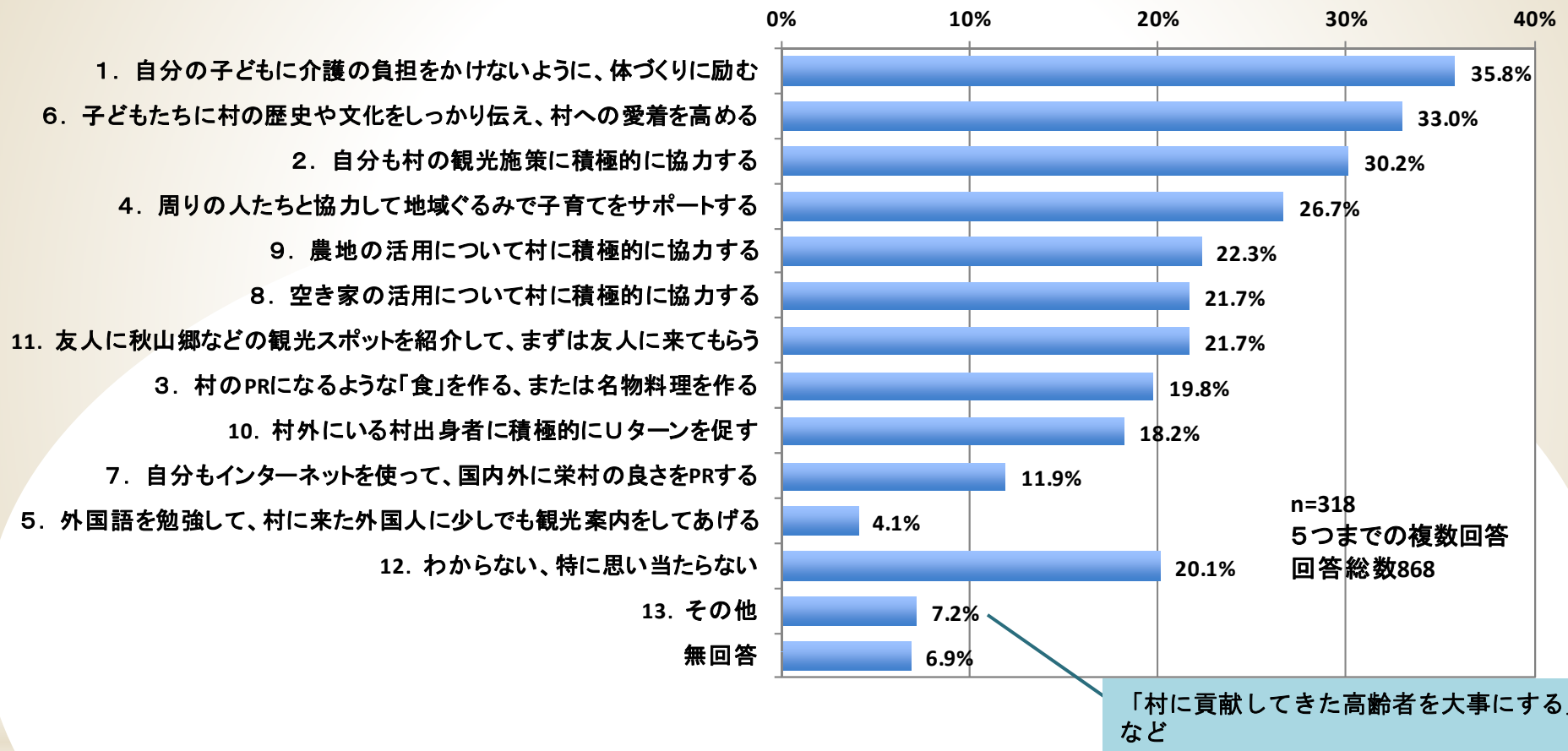
21. 人口減少、少子高齢化問題を解決していくために村が取り組むべきこと（村民の意識）
（5つまでの複数回答）

施策の方向性
（一例）



※21は複数回答につき、合計が100%にならないことに注意

22. 村民であるあなたが取り組むこと（村民の意識）（5つまでの複数回答）

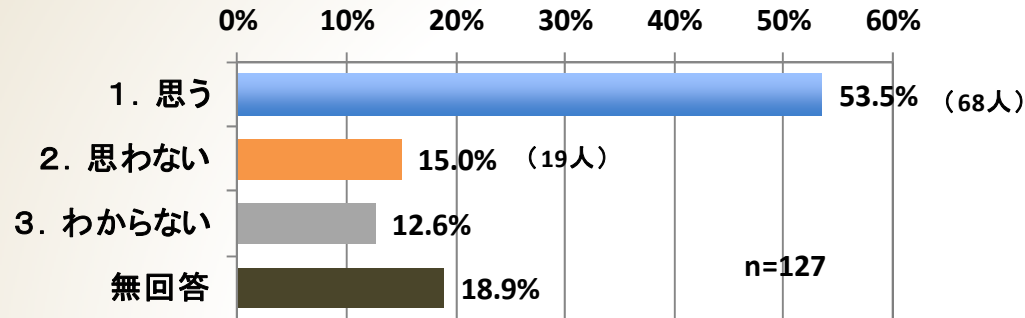


・村民は「村の施策」に対して協力する姿勢を示していると考えられることができる。すなわち、総合戦略の策定と実行に対しては、村民と意識や価値観を共有しながら進めていくことが必要と考える。

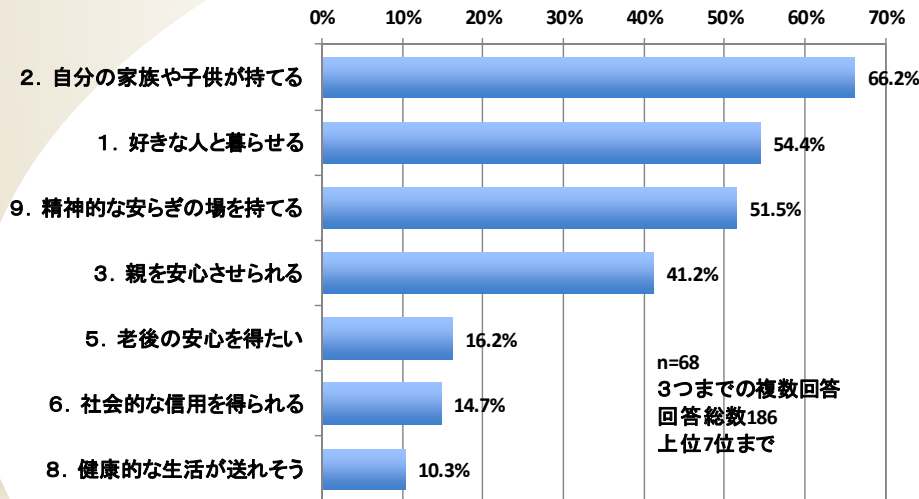
結婚に関する質問（独身者）

- ・結婚観
- ・婚活

23. 結婚希望の有無（再婚希望も含む）



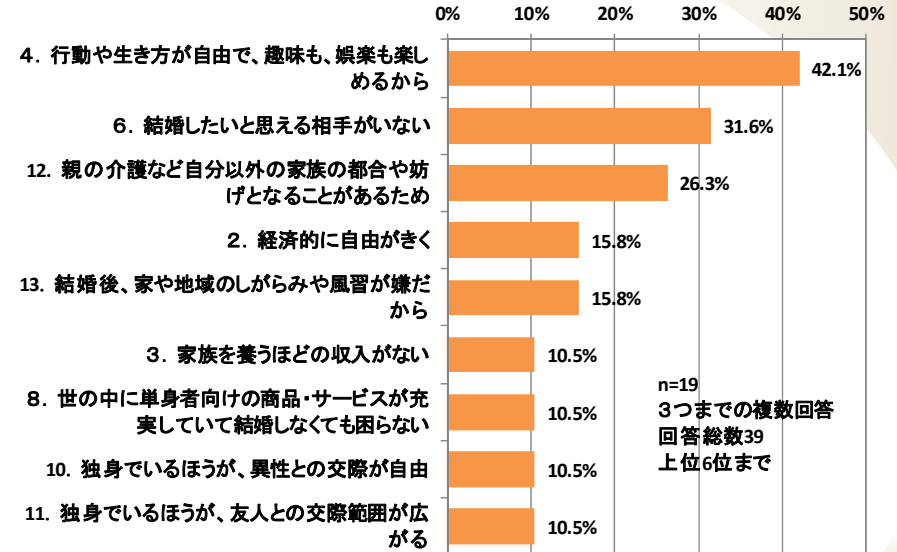
24. 結婚したい理由（3つまでの複数回答）



トップは「自分の家族や子供が持てる」、次いで「好きな人と暮らせる」となっている。家族志向の強さが伺われる。
 (cf. 2014年明治安田生活福祉研究所の全国調査（サンプル数810人）では、トップは「好きな人と暮らせる」、次いで「自分の家族が持てる」になっている)

※24, 25とも複数回答につき、合計が100%にならないことに注意

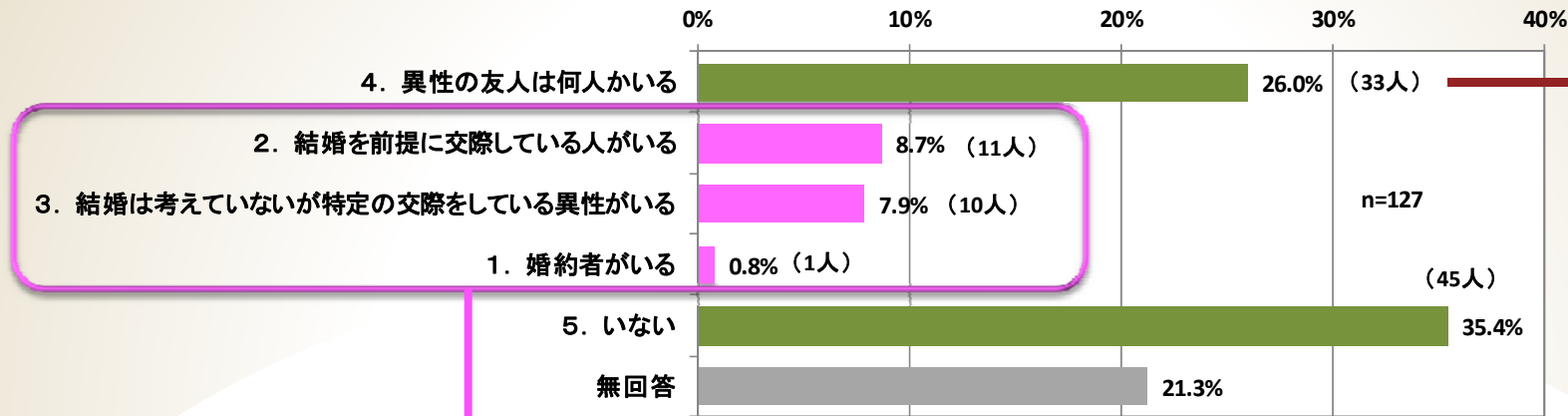
25. 結婚したくない理由（3つまでの複数回答）



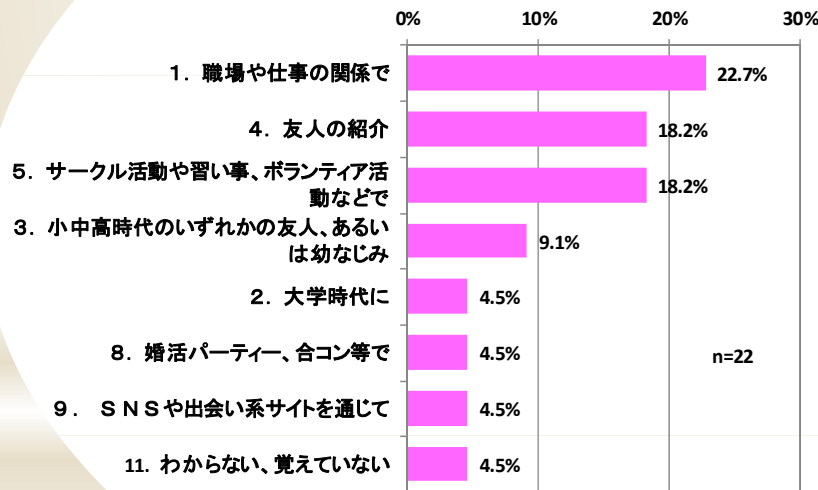
トップは「行動や生き方が自由で、趣味も、娯楽も楽しめるから」、次いで「結婚したいと思える相手がいない」となっている。独身貴族を楽しみたいという意見がある一方で、相手がいないとする回答率が3割を超えている。「結婚したい」とする裏返しの回答になっている可能性もある。

(cf. 2014年明治安田生活福祉研究所の全国調査（サンプル数470人）では、トップは「ひとりである方が気楽」になっている)

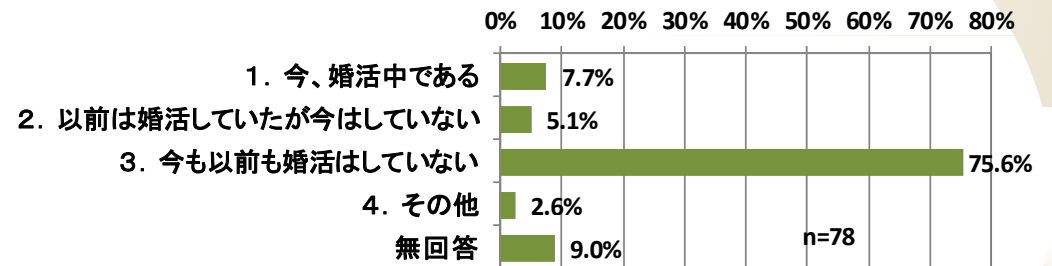
26. 交際している人の有無



27. 交際している人と出会ったきっかけ



28. 上図で4, 5と答えた人の婚活状況



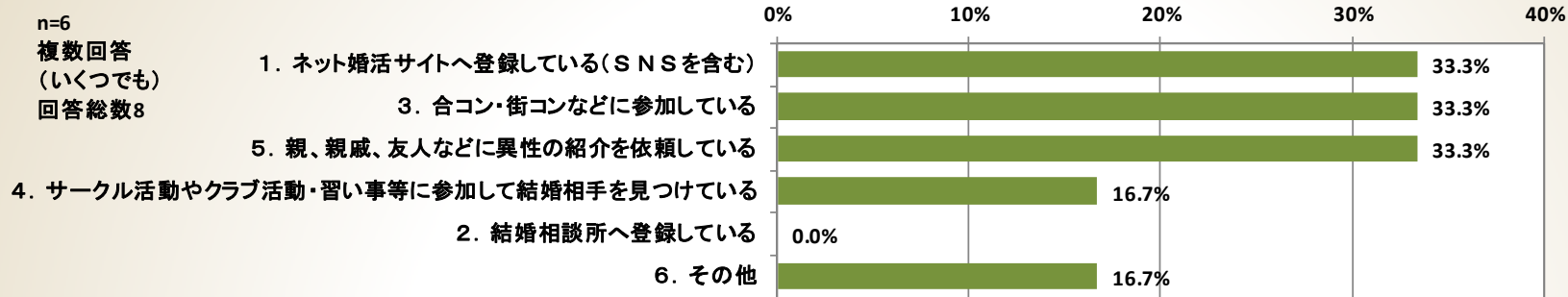
・独身者127人に交際している人の有無を尋ねたところ（上図の26）、特定の異性の人がいないと答えた割合が78人（61.4%）にのぼる（ほかに無回答が21.3%）

・そのうち、「現在婚活をしていない」と回答した割合は8割を超えている。

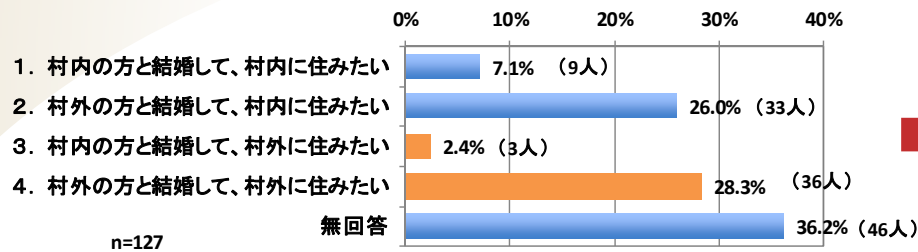
・23の結婚希望の有無の回答では「結婚したい」と答えた割合が過半数を超えていた。「結婚したい」が「彼女・彼氏がない」それでも「婚活をしていない」という姿が浮き彫りになっている。

・「婚活」については、そもそも婚活する機会がないのか、若者が婚活を結婚に向けての出会いと考えていないからなのか、不明である。このあたりが、婚活パーティーを行政がどのように支援していくべきか難しい問題といえる。

29. 出会いのために婚活中であると答えた人の婚活内容



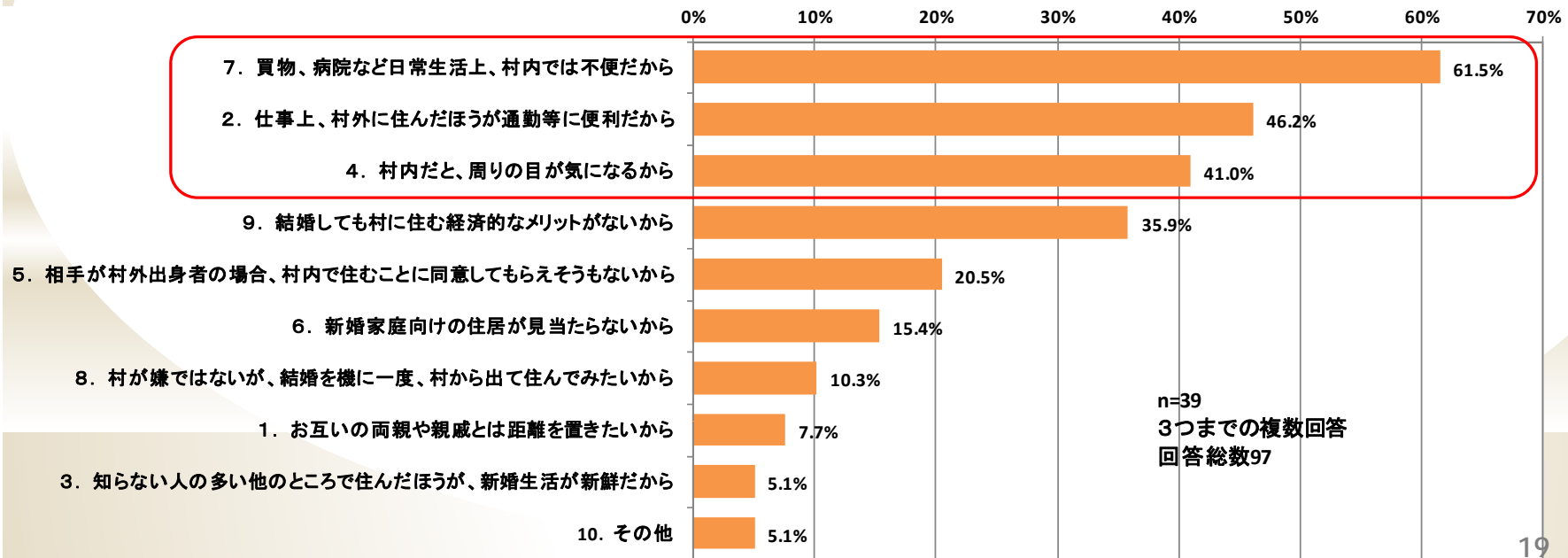
30. 結婚するとしたら、どこで住みたいか



相手の居住先を問わず、結婚後は村外に住みたいと答えた人(3, 4)は31.7%、一方、居住地よりも村外の相手と結婚したいと答えた人(2, 4)は54.3%と過半数を超えている。

31. 「村外に住みたい」理由は何か(3つまでの複数回答)

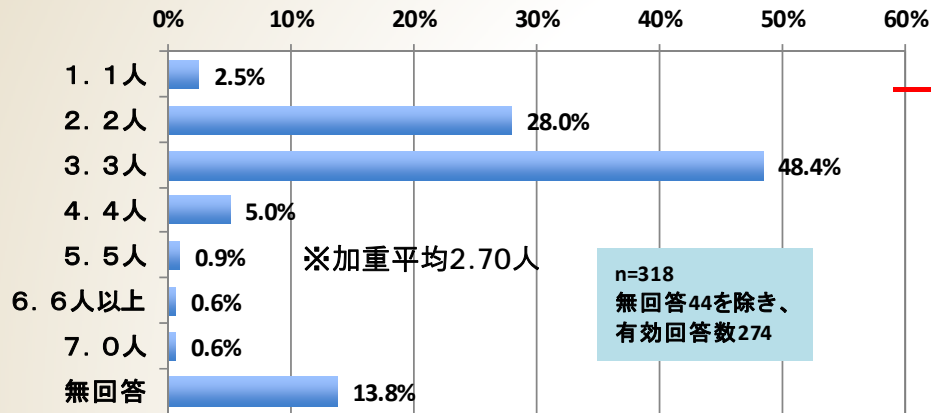
※31は複数回答につき、合計が100%にならないことに注意



出産、子育てに関する質問

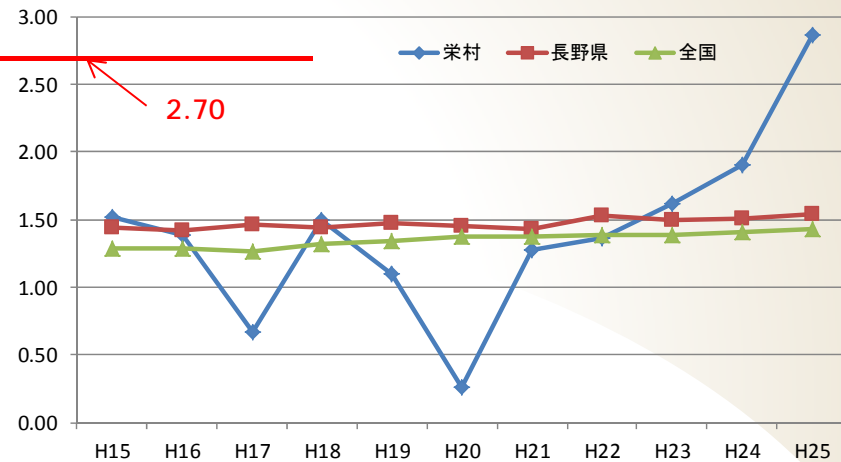
- ・理想の子どもの数と実際に産み育てられる子どもの数
- ・行政に子育て支援策として望むこと
- ・出産、子育てにあたっての自由意見

32. 村民に尋ねた理想的な子どもの数



※ Σ (子どもの数×回答者数) ÷ (総回答数－無回答) = 739 ÷ 274 = 2.70

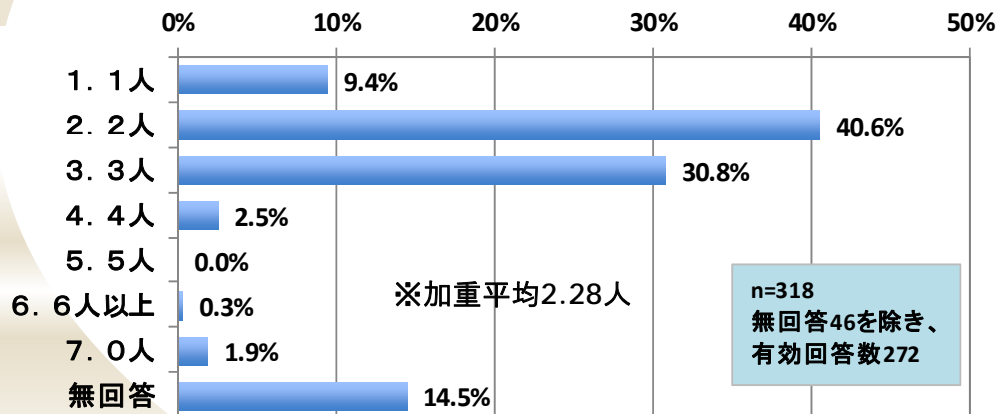
【参考】平成15～25年までの合計特殊出生率の推移 (長野県、全国との比較)



(資料)厚生労働省「人口動態調査」、長野県「毎月人口異動調査」

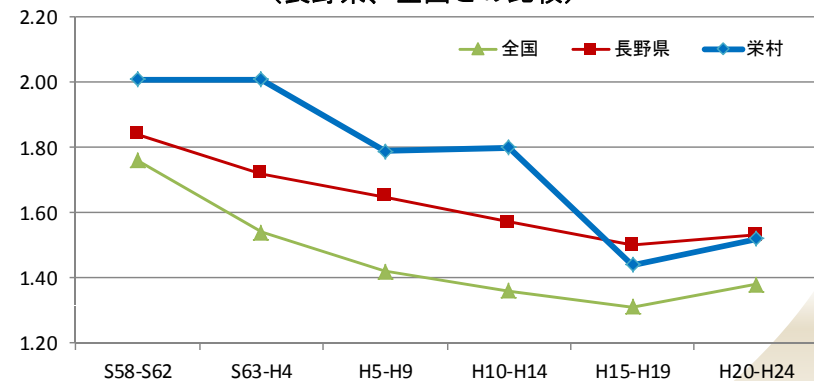
33. 実際に産み育てられる子どもの数

(今後出産予定のない人は、これまでに産み育てた子どもの数)



※ Σ (子どもの数×回答者数) ÷ (総回答数－無回答) = 620 ÷ 272 = 2.28

合計特殊出生率の5年平均の推移 (長野県、全国との比較)



(資料)人口動態保健所・市町村別統計

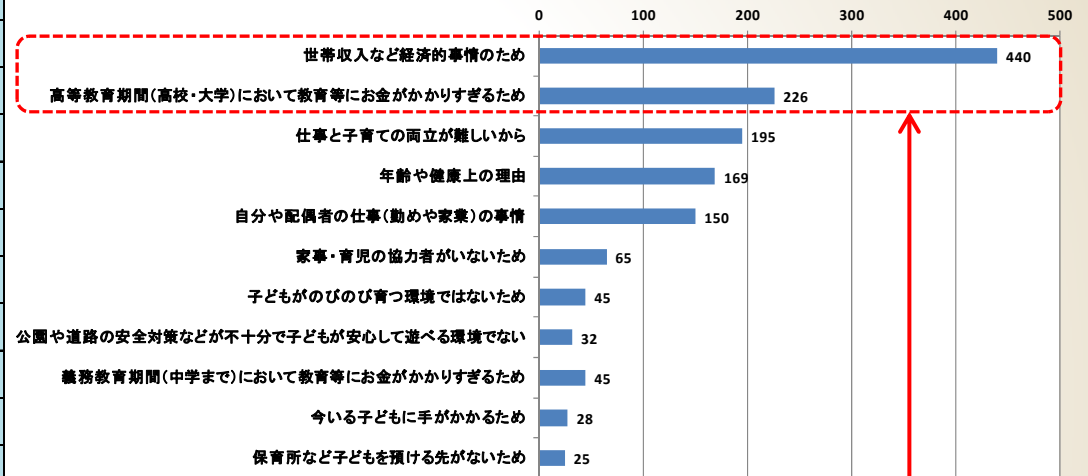
※ベイズ推定値、但し全国のS58～H14は、各期間の中央の年次における値

理想の子どもの数2.70－実際に産み育てられる子どもの数2.28＝0.42の差を埋めていくための支援策をどう考えていくか。

34. 実際に産み育てられる子どもの数と理想の子どもの数の差として考えられる要因（村民意識）

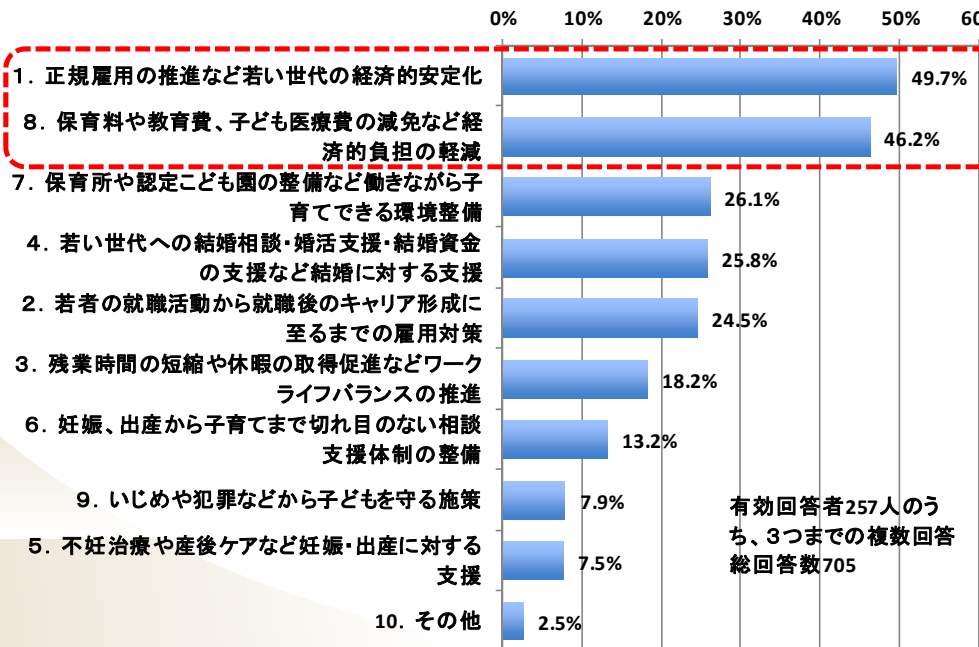
	第1位	第2位	第3位	総合点数
世帯収入など経済的事情のため	110	38	34	440
高等教育期間(高校・大学)において教育等にお金がかかりすぎるため	32	45	40	226
仕事と子育ての両立が難しいから	30	39	27	195
年齢や健康上の理由	34	22	23	169
自分や配偶者の仕事(勤めや家業)の事情	15	37	31	150
家事・育児の協力がいないため	4	16	21	65
子どもがのびのび育つ環境ではないため	5	10	10	45
公園や道路の安全対策などが不十分で子どもが安心して遊べる環境でない	5	4	9	32
義務教育期間(中学まで)において教育等にお金がかかりすぎるため	2	12	15	45
今いる子どもに手がかかるため	4	7	2	28
保育所など子どもを預ける先がないため	2	6	7	25
総回答数	243	236	219	

実際に産み育てられる子どもの数と理想の子どもの数の差として考えられる要因(村民意識)
(総合得点)



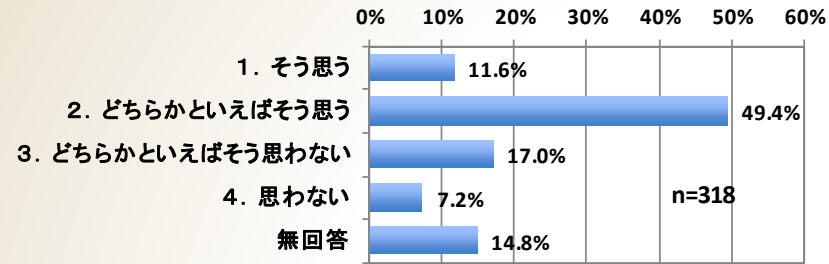
総合得点=(第1位にあげた回答数×3点)+(第2位にあげた回答数×2点)+(第3位にあげた回答数×1点)

35. 出産、子育てを支援するために行政に充実してほしいこと（3つまでの複数回答）



※35は複数回答につき、合計が100%にならないことに注意

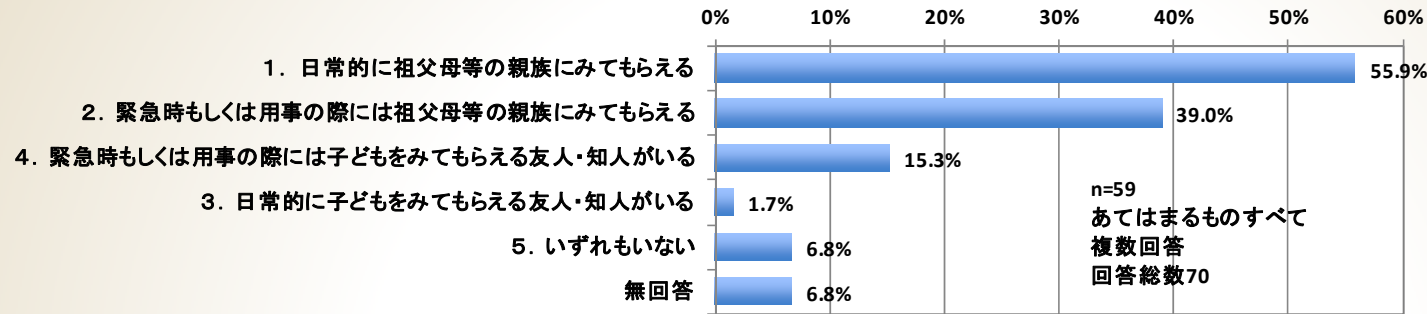
35. 栄村は子育てしやすい（しやすい）村かについて



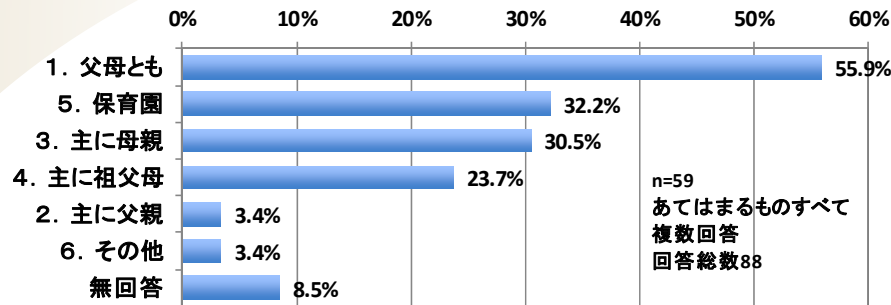
(18歳未満のお子様を) 子育て中の方に 尋ねた質問

- ・ 子育てに関わる人は
- ・ 出産、子育てにあたって仕事をどうしたか
- ・ 仕事への復帰意欲とその条件など

37. 日頃子どもをみてもらえる親戚、知人はいるか（複数回答）

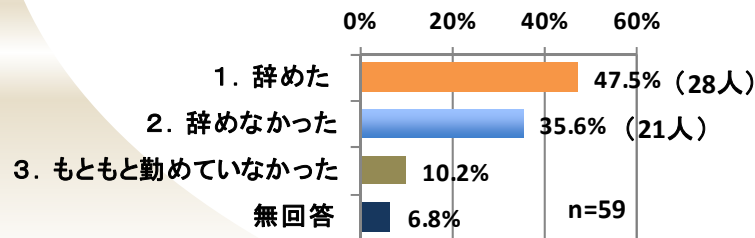


38. 日常的に子育てに関わっているひと、あるいは施設（複数回答）

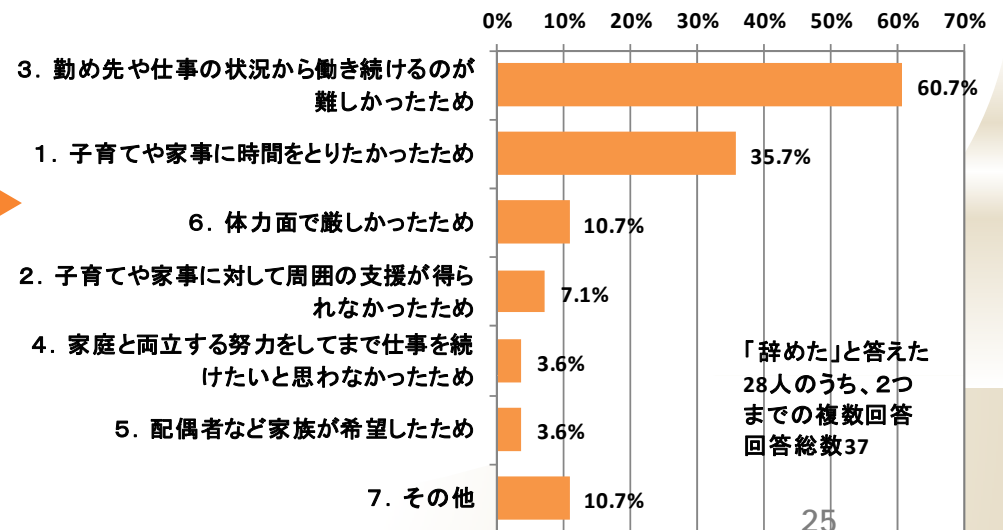


・ 37、38を見る限りは、本村の子育て環境は概ね良好と言える。
 ・ 一方で、39ではほぼ半数が「仕事を辞めた」と回答し、40の仕事辞めた理由では「勤務先や仕事の状況から子育てと両立できない」といった回答が6割にのぼる。

39. 妊娠、出産をきっかけに自分の仕事をどうしたか

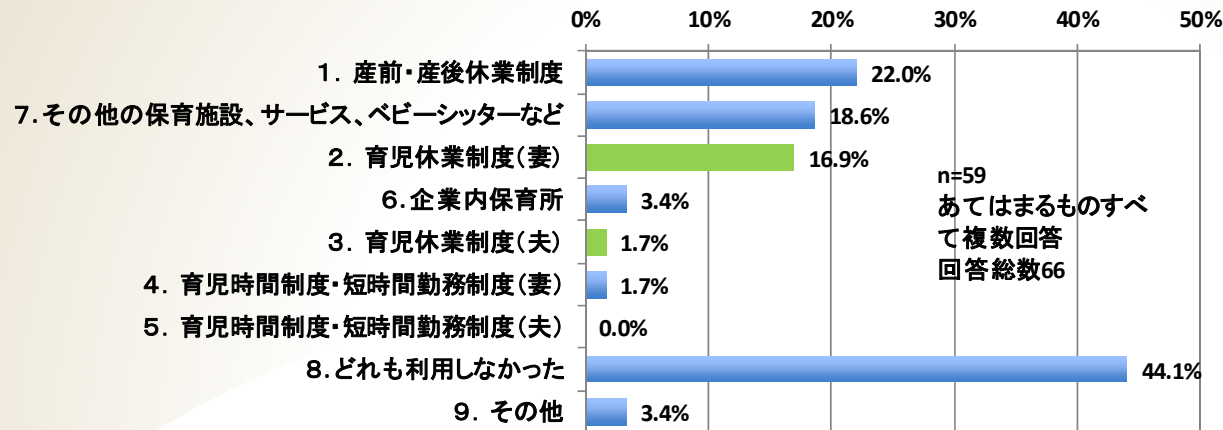


40. 仕事を辞めた理由（2つまでの複数回答）

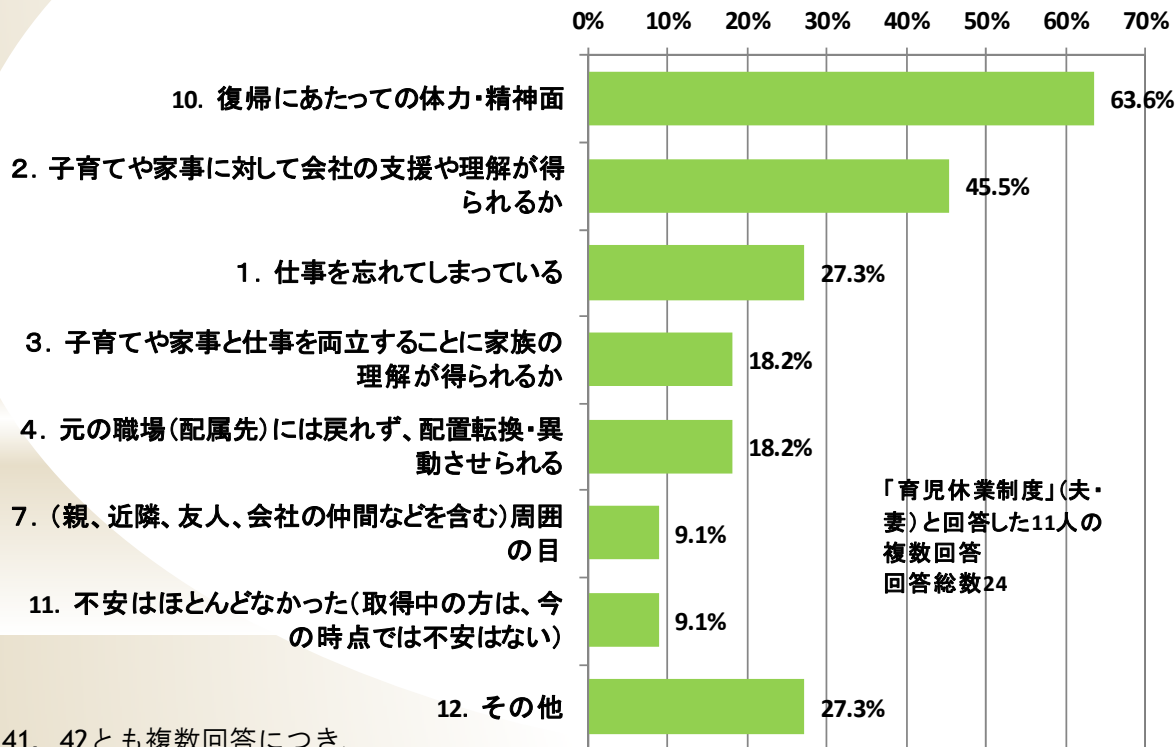


※37,38,40とも複数回答につき、合計が100%にならないことに注意

41. お子さんが3歳になるまでにつかった制度や施設（複数回答）



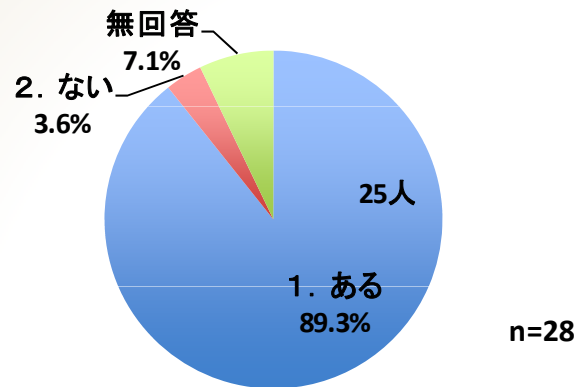
42. 育児休業制度（夫・妻）を利用した方が、職場復帰にあたって不安に思ったこと（現在利用中の方は不安に思っていること）は何か（複数回答）



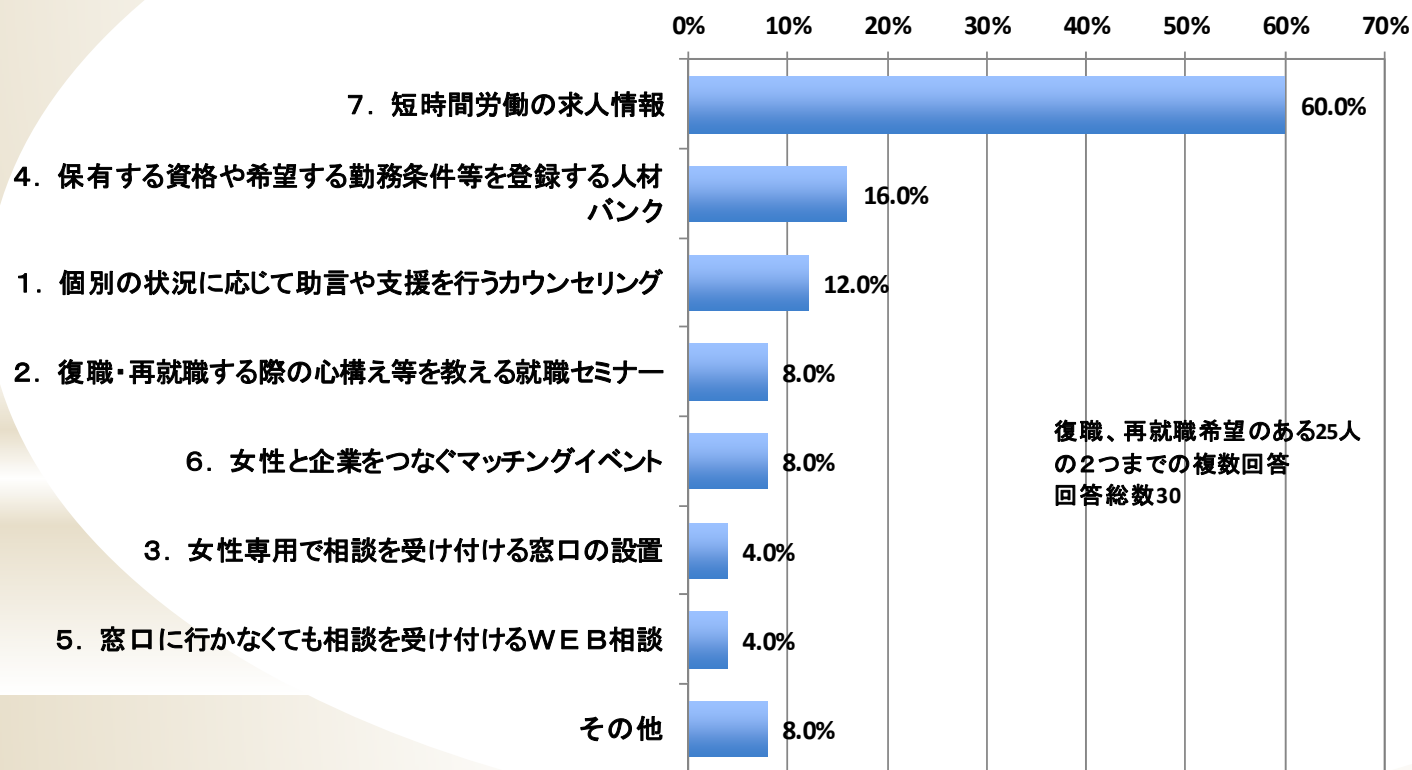
・ 職場復帰にあたって不安に思ったこと（今、不安に思っていること）では、「復帰にあたっての体力・精神面」と答えた回答数が最も多く、次いで「会社の支援や理解が得られるか」の不安となっている。

※41, 42とも複数回答につき、合計が100%にならないことに注意

43. 仕事を辞めたと答えた28人に、復職、再就職したい気持ちはあるか



44. 復職、再就職にあたってどういう支援を希望するか（2つまでの複数回答）



・復職、再就職希望のある人の希望する支援策は「短時間労働の求人情報」が最も多い。
 ・限られた求人や働き口の中ではあるが、行政や商工団体、企業が一体となって女性労働力の活用を検討することが強く求められる。

※44は複数回答につき、合計が100%にならないことに注意